

【開催趣旨】

衛生状態が良くないまま人口の大都市集中がはじまった欧州で、感染症が大流行し、それが上下水道の整備促進の原動力となりました。しかし医療が進んだ現在でも、依然として、感染症は発生し、病原性微生物は進化し、交通機関の発達により感染がより拡大しやすくなっています。

活性汚泥法が英国で発明され、ちょうど百年になり、いまや家庭排水を処理するだけでなく、工場排水処理などにも範囲を広げ世界中で広く使われています。我が国では、全国の2千百カ所の下水处理場で全下水量の99%を処理していて、これほど優れた存在のプロセスはないと考えられます。今や全世界で大量の下水处理に活躍しています。

病原菌も活性汚泥に簡単に食べられてしまうもの、しぶとくある程度生き残るものなど様々です。

このたび、第一線で活躍されている研究者の方々に、上下水道整備の原点となった、感染症について、研究の状況、課題などをお話しいたします。

【主催】 NPO 21世紀水倶楽部

【開催日時】 2014年11月7日（金）14：00開始 17：00過ぎまで

【会場】 日本水道会館7階会議室（東京都千代田区九段南4-8-9）
最寄り駅：JR「市ヶ谷」、東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線「市ヶ谷」

【プログラム】

第一部 講演

○腸管系感染症研究の最前線

国立感染症研究所 村山分室ウイルス第二部 宇田川 悦子主任研究官

○下水処理と病原微生物

東京大学大学院 都市環境工学大講座 片山 浩之准教授

第二部 質疑・討議

【参加費用】 一般 千円、 公共団体等職員・学生・専門紙記者等と会員は無料

【定員】 50名（申し込み先着順、定員になり次第締め切らせていただきます）

【申込方法】 NPO 21世紀水倶楽部ホームページ：<http://www.21water.jp/>
参加登録フォームから

【懇談会】 研究集会終了後、懇談会（参加費千円）を予定していますので、参加を希望される方は参加登録の際に「懇談会参加希望」とお書きください。

【問い合わせ】 E-mail：sympo-info2@21water.jp、Tel：03-3980-4567